

知的財産戦略

知的財産戦略の基本方針

キヤノンは、独自技術で差別化した魅力的な質の高い製品・サービスにより、新市場や新規顧客を開拓する研究開発型企業として発展してきました。知的財産部門は、事業の発展を支援することを重視し、これからの時代を先読みし、10年後、20年後の姿を描き、知的財産戦略を策定・実行しています。

このような知的財産活動の基本的な考え方を変えることなく受け継ぎながら、時代とともに戦術を変化させています。

基本戦略

- コアコンピタンス技術に関わる特許は、競争領域において事業を守る特許としてライセンスせず、競争優位性の確保に活用する。
- 通信、GUIなどの汎用技術に関わる協調領域の特許は、クロスライセンスなどに利用することで、研究開発や事業の自由度を確保し、魅力的な製品やサービスの提供につなげる。
- 他社の知的財産権を尊重する。一方でキヤノンの知的財産権の侵害に対しては毅然と対応する。
- 他社が容易に到達できない検証困難な発明は、ノウハウとして秘匿し守ることで、他社の追従を許さず、競争優位性を確保する。

新たな価値創造のための特許ポートフォリオ

キヤノンの知的財産活動は、強い特許ポートフォリオを構築することで、競争優位性の確保と事業の自由度の確保をバランスよく両立させていることが特徴です。

事業のコア技術に関する特許取得はもちろんのこと、事業では競合しないが知的財産で競合するIT系企業などとの訴訟・交渉に備えて、例えば、AI技術やIoT技術、標準化技術などの特許取得にも力を入れています。また、SDGsなど社会課題の解決に貢献する技術の特許取得を積極的に行っています。このように外部環境や将来の事業を見据えて特許を取得するとともに、保有する特許を入れ替えることで、強い特許ポートフォリオを維持しています。

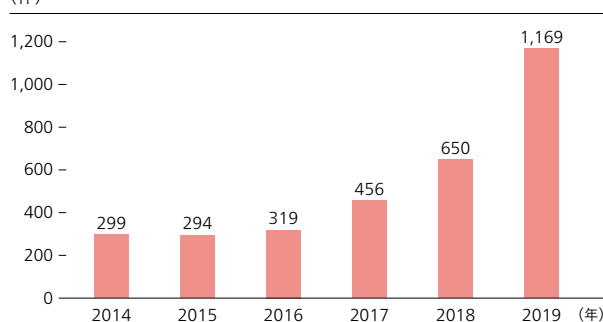
キヤノンは、全世界で特許・実用新案を約8万7千件保有しています(2021年11月30日現在)。特に、市場規模が大きく、知的財産訴訟が起きやすい米国での出願に注力しており、米国の特許登録件数ランキングは36年連続で5位以内を維持しています。

2021年米国特許登録件数上位5社

順位	権利者	件数
1	IBM	8,682
2	サムスン電子	6,366
3	キヤノン	3,021
4	TSMC	2,798
5	ファーウェイ	2,770

※IFI CLAIMS Patent Servicesの2022年1月5日の発表に基づく

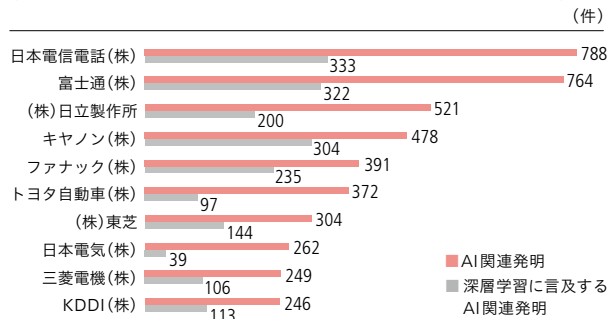
キヤノンの世界におけるMachine Learning & AI関連の出願件数推移



(2022年2月17日のデータに基づく) 出典: LexisNexis PatentSightにより作成
なお、上記は公開データに基づいて算出されるため、特許出願が公開されるまでの期間を考慮して、2019年までの数値を掲載しています。

AI関連発明の日本出願件数

(2014年以降の出願で2021年5月までに公開されたもの)



※「AI関連発明の出願状況調査 報告書 2021年8月 特許庁 審査第四部 審査調査室」に基づく

オピニオンリーダーとしての活動

キヤノンは、日本の産業の振興、ひいては世界の産業の振興への貢献をめざし、知的財産の業界をリードする活動を積極的に行っています。2014年には、LOTネットワーク(License on Transfer Network)を他社とともに設立し、自らは事業を行わず特許訴訟を脅しに利益を得るPAE (Patent Assertion Entity)による不当な特許訴訟から会員企業を守る仕組みを構築しました。2021年11月時点で1,700社以上が会員企業になっています。2020年には、発起人としてさまざまな業界に働きかけを行い、「COVID-19と戦う知財宣言」を立ち上げ、新型コロナウイルス感染症の早期収束を支援しています。また、2019年より、世界知的所有権機関

(WIPO)が運営する、環境技術の活用を促進するためのプラットフォームであるWIPO GREENにパートナーとして参加し、WIPOと協力して環境技術の普及を行っています。さらに、各国特許庁の長官と意見交換を行い、よりよい知的財産システム(環境/制度/施策)の確立に貢献しています。

グローバル優良企業グループ構想 フェーズVIにおける知的財産活動

キャノンは、グローバル優良企業グループ構想フェーズVIにおいて、プリンティング、イメージング、メディカ

ル、インダストリアル各グループの事業競争力の強化を図る一方、ポリュメトリックビデオ、XRなどの次世代イメージング、次世代ヘルスケア、スマートモビリティなど将来のビジネス創出にも力を入れています。知的財産部門は、これらの事業が持続的に発展・成長するために、光学技術、映像処理・解析技術などのコアコンピタンス技術、AI・IoTを組み入れたサイバー&フィジカルシステムに欠かせない技術、SDGsなど社会課題の解決に必要な技術などに関する知的財産の創出・権利化に力を入れています。

産業グループ別の知的財産戦略

プリンティング

- **プリントエンジン×DX**
プリントエンジン、材料、キーコンポーネントに加え、クラウド、ネットワーク技術を融合させ、DX時代のワークプレイスに求められるプリンティングのシステム&ソリューションを強化し、UX(ユーザーエクスペリエンス)に新たな価値を提供する知的財産を創出。
- **商業・産業印刷**
キャノンプロダクションプリンティングほか、グループ会社との連携体制を強化し、ラベル印刷やパッケージ印刷を含めた商業・産業印刷分野の強化と技術の進化により、新たな知的財産を創出。

メディカル

- **医療現場に価値を提供**
経営スローガン「Made for Life」のもとに、AIを活用した画像再構成技術や読影支援ソリューション、直感的な操作を可能にする新UX、次世代型検出器などの知的財産を継続的に創出。医療現場の効率化、コスト削減、確信度の高い医療の提供を続け、将来的には個別化医療の提供をめざす事業を知的財産面から支援。
- **事業ポートフォリオの拡大**
医療における新たなニーズに応えるため、グループ内で培ってきた技術のシナジーを追求するとともに、世界各国・地域の研究機関とのオープンイノベーションを推進し、画像診断システム領域のみならず、検査試薬などの体外診断分野や再生医療分野に参入するための研究開発を展開し、知的財産を創出。

イメージング

- **カメラからソリューションへ**
光学、デバイス、映像処理などのイメージングのコア技術と、ネットワーク技術を融合させ、ハードウェアからソリューションに至るまで製品・サービスを幅広く強化。ミラーレスカメラ、交換レンズ、イメージセンサー、ディスプレイなどの技術を深化させて知的財産を創出し、ニューコンセプトカメラ、XR、ポリュメトリックビデオなどで新たな知的財産を創出。
- **ネットワークカメラ&スマートモビリティ**
グループ会社であるアクシス、マイルストーン、ブリーフカム、アーキテュアーズと連携し、映像管理、映像解析の深化とともにセキュリティ事業を強化。さらに、光学技術とネットワーク技術を強みに、ネットワークカメラでは、社会インフラを見据えた領域に拡大し、スマートモビリティでは新規分野の知的財産を創出。

インダストリアル

- **半導体・FPD製造関連装置**
露光装置、ダイボンダー、OLED製造装置、スパッタリング装置などの分野においては、特許とノウハウによるオープン&クローズ戦略を実施。装置をネットワークにつなげて管理するシステムなど、産業機器IoTにも注力。
- **半導体業界の革新**
半導体業界に革新をもたらすナノインプリントリソグラフィでは産学官連携やグループ会社連携を利用し、光学、化学、機械、電気の粋を集めて、材料技術、要素技術、装置技術から半導体プロセスまで、強靱な特許ポートフォリオを構築。

最先端技術と、持続可能な社会に向けて

- **最先端を切り拓く技術**
本社研究開発部門で研究が進む、3Dプリンター用セラミックス、鉛フリー圧電体、SPADセンサーなどの素材・デバイス技術、Mixed Reality、Visual SLAMなどのデジタル要素技術、超大型望遠鏡TMT、赤外イメージング回折素子、人工衛星などの宇宙科学技術の分野では、世界初・最先端のコア技術の特許を含むポートフォリオ形成に注力。
- **標準技術、データ/コンテンツ・ビジネス**
動画符号化(HEVC、VVC)、無線通信(Beyond 5G、Wi-Fi7)、無線給電などのデジタル基盤技術をより一層強化するとともに、画像データを活用した新たな価値提供を行う映像制作やデータ/コンテンツ・ビジネスにも注力。また、これらの特許ポートフォリオを拡大。
- **社会課題への対応**
省エネ、資源保全、脱炭素、安全衛生など、SDGsに向けてオープンイノベーションを活用しつつ社会課題の解決に寄与する発明や事業を創出し、持続可能な社会の実現に貢献。

知的財産活動に関するこのほかの情報はこちら
<https://global.canon/ja/intellectual-property/>